

第78回

日本公衆衛生学会総会

日時：10月23日（水）～25日（金）

会場：高知市文化プラザかるぼーと、他（高知県高知市）

テーマ：実践と研究との協働の深化
—マインドとコンピテンシー—

プログラム：[前日] 自由集会1～3

[1日目] 特別講演「日本一の健康長寿県構想について」尾崎正直/学会長講演「実践と研究との協働を深化させる—マインドとコンピテンシー—」安田誠史/シンポジウム1「高知から考える南海トラフ地震等広域災害への備え」座長：安村誠司、奥田博子/シンポジウム2「地域が連携し行—子どもたちの『生きる力』を育む教育」座長：家保英隆、渡會睦子、シンポジウム3「健康経営の効果と普及策」座長：津下一代、仁賀建夫/シンポジウム4「薬機法改正と公衆衛生における今後の薬剤師の役割—持続可能な社会保障のために」座長：川崎直人、多根井重晴/シンポジウム5（市民公開）「いきいき百歳体操—住民主体の介護予防は、地域包括ケアを育む土壌」座長：柳尚夫、堀川俊一/シンポジウム6「モニタリングレポート委員会による『賛否の分かれる公衆衛生対策に関するディベート』」座長：尾崎米厚/シンポジウム7「フィンランドのネウボラから学ぶ児童虐待予防の方策と親子保健の再構築」座長：中島正夫、播本雅津子/シンポジウム8（地方衛生研究所研修フォーラム）「マシギャザリングにおける感染症危機管理」座長：四宮博人、調恒明/シンポジウム9「受動喫煙防止—改正健康増進法の実効性を高めるために」

座長：中村正和、姜英/シンポジウム10「地方自治体のヘルスケア分野におけるEBPM実現を目指して—課題の構造化と組織内連携」座長：大久保一郎、鈴木幸雄/シンポジウム11「障がい者のヘルスプロモーション—誰一人取り残さない地域づくり」座長：岩室紳也/シンポジウム12「襲来が予測される震災に東日本大震災の東北3県沿岸部での公衆衛生活動と教訓を活かす」座長：渡會睦子、廣末ゆか/教育講演1「新生児・乳幼児の難聴（きこえ）と地域での保健活動」福永一郎/教育講演2「健康寿命延伸に向けたナショナルセンターの疾患横断的研究連携」井上真奈美/一般演題（口演）/一般演題（示説）/自由集会4～20

[2日目] シンポジウム13「地域包括ケアと災害医療対策」座長：松本良二、石田久美子/シンポジウム14「保健師の地区担当制がめざすもの—一駐在保健師制度にこだわった高知からの発信」座長：中板育美、中島信恵/シンポジウム15「スマホ・ネット・ゲーム依存対策の最前線—公衆衛生学的アプローチ」座長：井谷修、尾崎米厚/シンポジウム16「地域における海外からの感染症対策—厚生労働省検疫所と自治体の連携」座長：柏樹悦郎、垣本和宏/シンポジウム17「AI、IoT、ビッグデータを用いたこれからの公衆衛生（国立保健医療科学院企画）」座長：曾根智史、三浦宏子/シンポジウム18「生活困窮世帯およびその子どもへの健康支援のあり方」座長：近藤尚己、黒谷佳代/シンポジウム19「高齢者の低栄養に関する研究と地域包括ケアシステムの実践」座長：澁谷いづみ、丸山広達/シンポジウム20「期待される性感染症予防教

育とは」座長：伊東則彦、白井千香/シンポジウム21「健康なまちづくり—その概念と実践」座長：曾根智史、福永一郎/シンポジウム22「全国がん登録から考える日本のがんの現状と対策」座長：猿木信裕、大木いづみ/シンポジウム23「根拠に基づく公衆衛生政策（EBPM）の具体的事例とノウハウ（学術行政連携検討委員会）」座長：鶴田憲一、尾島俊之/シンポジウム24「健やか親子21（第2次）中間評価と育成基本法」座長：山縣然太郎、佐藤拓代/シンポジウム25「オーラルフレイルの予防」座長：尾崎哲則、増田和茂/教育講演3「日本人の食事摂取基準（2020年版）—公衆衛生はどう活用すべきか？」佐々木敏/教育講演4「オーラルフレイル研究の現状と展望」渡邊裕/ミニシンポジウム1「高齢者支援と子ども・子育て支援における地域多世代型アプローチは可能か？」座長：藤原佳典、福島富士子/ミニシンポジウム2「地域共生社会に向けた『保健活動』の展開」座長：大澤絵里、藤原佳典/ミニシンポジウム3「子宮頸がんワクチンの再開に向けたエビデンスの確認と戦略」座長：田中英夫、上田豊/ミニシンポジウム4「人生100年時代の地域包括エンパワメント戦略」座長：安梅勲江/ミニシンポジウム5「産学官協働で地域強靱化を目指す危機管理システムのマインドとコンピテンシー」座長：古屋好美、中瀬克己/ミニシンポジウム6「自治体・住民と取り組む地域参加型研究（CBPR）」座長：近藤克則、村田千代栄/ミニシンポジウム7「健康的な食事・食物へのアクセスの改善—食環境整備における行政管理栄養士の役割」座長：武見ゆかり、由田克士/一般演題（口演）/一般演題（示説）/自由集会21～35

[3日目] シンポジウム 26「OECD 諸国と比較したわが国の健診・検診の課題と対策」座長：中山富雄、高橋宏和／シンポジウム 27「多文化に対応できる公衆衛生専門家を目指して」座長：和田耕治、高山義浩／シンポジウム 28「地域歯科保健推進のための新たな触予防戦略」座長：尾崎哲則、福田英輝／シンポジウム 29「子どもとインターネット依存モニタリングレポート委員会親子保健・学校保健グループ」座長：関根道和、鈴木孝太／シンポジウム 30「メンタルヘルス対策—職域と地域の連携のギャップを埋めるために」座長：野村恭子、堤 明純／シンポジウム 31「国際化する地域—求められる保健所のグローバル化対応能力」座長：劔 陽子、渡邊洋子／シンポジウム 32「休養／睡眠の公衆衛生—実践と研究との協働の深化」座長：神田秀幸／シンポジウム 33「社会に役立つ公衆衛生実務家教育の実践を目指して」座長：中山健夫、川上憲人／感染症リスクアセスメント研修会／一般演題（口演）／一般演題（示説）／自由集会 36

問い合わせ先：総会事務局

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-3-6 第3博多偕成ビル 株式会社コンベンションリンケージ内
☎ 092-437-4188
FAX 092-437-4182
✉ jsph78@c-linkage.co.jp

日本家族計画協会主催指導者向けセミナー・研修会 切れ目のない妊娠・出産・育児支援のためのセミナー—周産期のメンタルヘルスから児童虐待防止につなげる 第4回（福岡）

日時：11月2日（土）

会場：リファレンス駅東ビル（福岡市博多区）

プログラム：「健やか親子21（第2次）『妊娠期からの児童虐待防止対策』とは」山縣然太郎（山梨大学大学院社会医学教授）／「周産期メンタルヘルス—ハイリスク妊婦への対応」鈴木利人（順天堂大学大学院精神・行動科学教授）／「児童虐待と他機関連携」仙田昌義（総合病院国保旭中央病院小児科部長）

対象：切れ目のない支援に関わるすべての人（保健師、助産師、医師、ソーシャルワーカー、保育士、行政の子育て世代包括支援センター担当者など）

受付締切：10月28日（月）

受講料：1万5000円（税別）

定員：100名

申込方法：下記 URL から

問い合わせ先：日本家族計画協会研修担当

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町1-10 保健会館新館

☎ 03-3269-4785

FAX 03-3267-2658

URL www.jfpa.or.jp/seminar

第8回日本ポジティブサイコロジ—医学会 学術集会

日時：11月16日（土）

会場：慶應義塾大学三田キャンパス（東京都港区）

プログラム：シンポジウム1「ポジティブ精神医学と意義と可能性『ポジティブ精神医学』刊行を記念して」沢宮容子（筑波大学人間系教授）、奥山真司（トヨタ自動車株式会社人事部統括精神科医・主査）、三村将（慶應義塾大学医学部精神・神経科学教授）／会長講演「応用ポジティブサイコロジ—の学際的展開と働き方」小林正弥（慶應義塾大学

大学院システムデザイン・マネジメント研究科特別招聘教授）／特別企画（動画）「本学会への国際的メッセージ」マーティン・セリグマン（ペンシルベニア大学ポジティブサイコロジ—センター長）、エド・ディーナー（イリノイ大学名誉教授）、タル・ベンシャハー（Happiness Study Academy 代表）、ライル・アンガー（ペンシルベニア大学コンピューター情報科学部教授）／教育講演「ごきげんな起業のススメ」坪田一男（慶應義塾大学医学部眼科学教授）／シンポジウム2「働く人の幸せ（1）医療者・研究者の視点から」島津明人（慶應義塾大学総合政策学部教授）、西垣悦代（関西医科大学医学部心理学教授）、秋山美紀（東京医療保健大学医療保健学部看護学科准教授）／シンポジウム3「働く人の幸せ（2）実務者・経営者の視点から」青野慶久（サイボウズ株式会社代表取締役社長）／島田由香（ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス株式会社取締役人事総務本部長）

事前参加登録締切：10月25日（金）23時59分

参加費：（会員）1万円、（非会員）1万4000円、（学生会員）7000円、（学生非会員）1万1000円、（懇親会費）8000円

問い合わせ先：日本ポジティブサイコロジ—医学会事務局

〒107-0062 東京都港区南青山2-26-35 8階

☎ 03-5775-2075

FAX 03-5775-2076

✉ info@jphp.jp